

マイクロ波による海氷物理量計測に関する研究 -海氷誘電率の計測-

A study on microwave measurement of sea ice physical parameters -Measurement of sea ice dielectric constant-

> 若林 裕之, 中村 和樹 (日大) 長康平(WNI) J.T. Sri Sumantyo(千葉大)

CEReS環境RSシンポジウム 千葉大学 Feb.21,2014

研究の目的

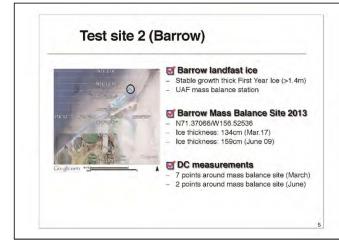
- 研究目的
 - 海氷モニタリングにおけるリモートセンシングデータの有効利用
 - 環境変動の把握
 - ・ 氷海における航路の確保
 - SARによる海氷モニタリングの有効性評価
 - 周波数および偏波特性担握
 - 海氷物理量(氷厚・表面ラフネス)抽出の可能性評価
- 今までの経緯
 - 1993~2013までの海氷観測実験(サロマ湖及び外洋)
 - ERS-1/2,JERS-1,RADARSAT等の単偏波SARによる解析
 - 海氷の成長に伴う後方散乱特性
 - 後方散乱の入射角特性を利用した海氷物理量の抽出
 - 多偏波SAR (Pi-SAR, PALSAR)データの解析 海氷物理量に感度の高いパラメータ検討

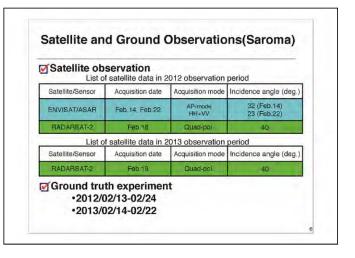
 - 薄氷域における海氷検出精度向上

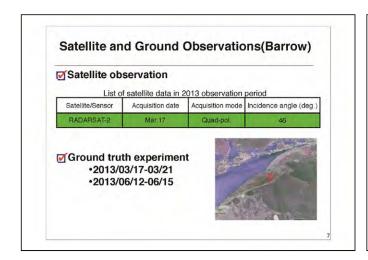
SARによる海氷物理量計測における問題点

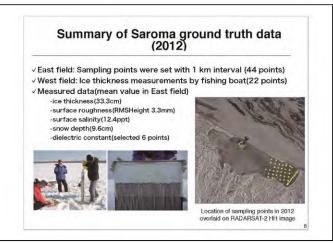
- 地上観測データに起因する問題
 - 海氷の後方散乱特性:誘電率とラフネスに依存
 - 誘電率: 現地での直接測定が困難 > 氷の塩分濃度と表面温度からモデル推定
 - ラフネス: 広範囲の把握が困難 > 数少ない観測点のデータ使用
 - 多様な氷厚に対するデータ取得の問題
 - テストサイト
 - サロマ湖: 氷厚範囲 20cm~40cm
 - 船舶による観測:衛星同期観測やデータ解析における同定
- 問題点解決を目標にサロマ湖およびアラスカにおける観測実験を実施
 - 海氷表面誘電率の直接測定
 - 薄氷域・厚氷域データの取得

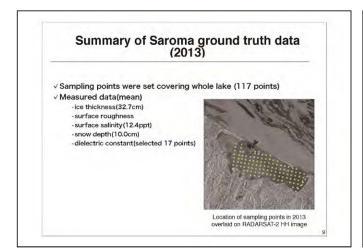
Test site 1 (Lake Saroma) ✓ Lake Saroma (150km²)Salt water lake connected to the Sea of Okhotsk with 2 channels Salinity of lake water is almost the same as that of sea water (> 30 ppt) Lake ice grows till 40 cm thick in winter time and is stable enough to get the ground truth data 44 sampling points with 1000 m interval set in 2012 117 sampling points in 2013 Ship measurement conducted in the west part of the lake in 2012 **OC** measurements 6 points (2012) 18 points (2013)

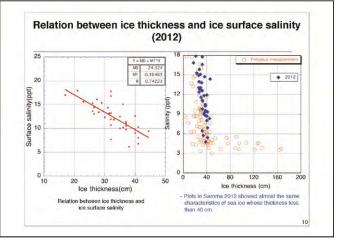


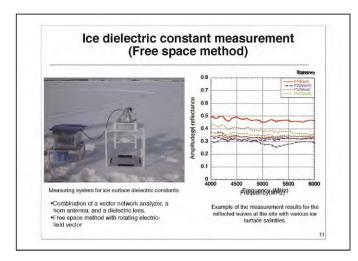


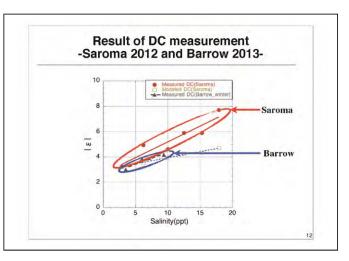


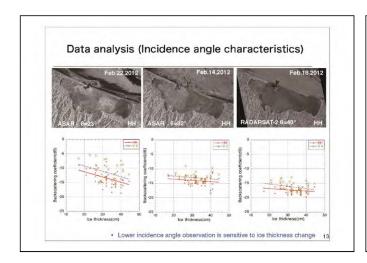


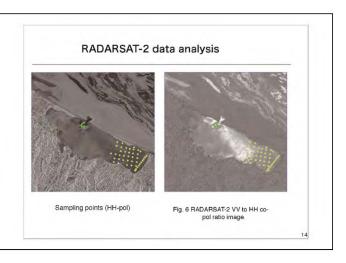


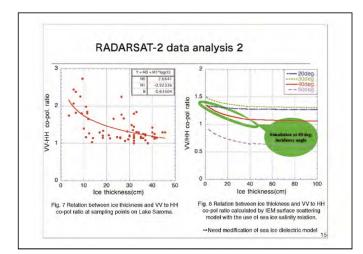


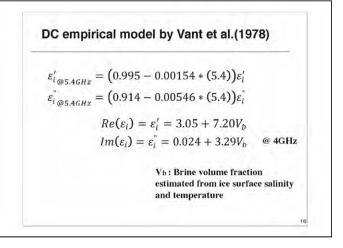


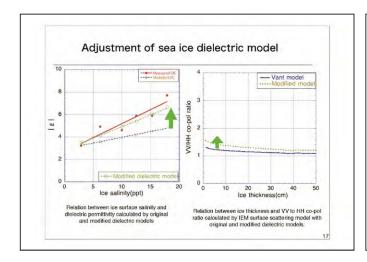


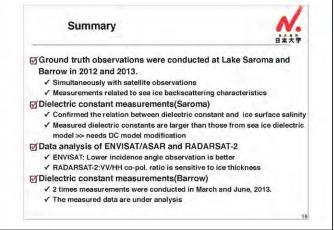












今後の課題

- 誘電率計測の精度確認および精度向上
- ■海氷誘電率モデルの改良
 継続したトゥルースデータ取得および衛星データ解析
 →サロマ湖、アラスカ・バロー定着水

謝辞

- ENVISATデータの一部は「千葉大学環境リモートセンシング研究センタ 一共同利用研究」にて購入.
- ■「IARC-JAXA 情報システム(IJIS)及び衛星データ等を利用する北極圏研究」 の助成を受けて観測実験を実施およびENVISATデータの一部購入.
- RADARSAT-2データはKIOST(Korea Institute of Ocean & Technology)の好意により提供.
- 薄水グランドトゥルースデータは東海大学(長 研究室)の好意により提供.
 Umiaqのサポートを受けてパロー観測を実施.